

平成29年度第3回生駒市市民活動団体支援制度審査会

開催日時 平成29年9月11日（水） 午前10時00分から

開催場所 生駒市役所 401会議室

出席者

（委員）中川委員、北浦委員、宮西委員、谷野委員、原田委員、石畑委員

（事務局）平田市民活動推進課長、金子市民活動推進課長補佐、西野市民活動推進センター所長、西田市民活動推進センター係員

案件1. 平成29年度市民の選択の届出結果について

【中川会長】 それでは、始めさせていただきます。平成29年度市民選択の届出結果についての報告をお願いします。

【事務局】 それでは、事務局から平成29年度のマイサポいこまのご報告させていただきます。今年度の登録団体数は25団体、届出人数は9,129人、届出率は9.18%、希望金額398万9,070円に対し、届出による支援金額は682万8,935円と過去最高を記録いたしました。

昨年度の届出率が5.38%となり、制度開始以来最低値となったことから、改善策としてPR強化に努めてまいりました。まずは団体募集に関して説明会を増やし、生涯学習団体の全団体へチラシを配付するなどを行いました。また、マイサポ制度の周知のための必要物品を現物で5,000円まで希望に応じて提供しました。配付した物品としましては、街頭啓発で届出の受付に使用できるクリップボードやクリアケース、事業の内容を書いたマイサポいこまのチラシなどです。

団体の皆様には、市内3カ所の駅でビラ配りを全団体で行っていただき、また、各団体でPR活動を行っていただきました。市民の皆様へは、より分かりやすい制度周知ということで、広報「いこまち」とともに全戸配布しておりますマイサポいこま紹介冊子に漫画を活用し、全体的に文字数を減らし、すっきりしたものにいたしました。また、届出者の中から抽せんでプレゼントということで、興味を引く工夫もいたしました。市民活動推進センターの職員は市内78カ所で出前受付を行い、市民一人一人に制度説明を行い、届け

出していただくようにいたしました。

そのため、昨年度までの傾向として、団体構成員や団体から頼まれて届出されていた人が多く、比較的1団体を選択する人が多かったということがありました。今年度は複数団体を選択された人が多くなり、一般の市民の人の啓発となりました。しかし、反面、無効票も790人となりましたので、こちらは課題とさせていただきたく思います。

無効原因としましては、複数枚の届出が366枚、住所未記入が155枚、住民基本台帳記載なしが120枚等の原因でございまして、無効届出は合計で790枚となりました。イベント等の会場で書いていただくことが多かったことからこのような結果になったかと思えます。しかし、団体の支援金額にそれが反映されたということはありませんでした。20団体が希望金額を達成し、残り5団体もほぼ達成ということで、変更申請はございませんでした。団体の皆様には希望金額が達成されたということとともに大幅に上回る応援が市民の皆様からあったということとを伝え、今後の活動の励みとしていただいております。

以上で平成29年度のマイサポいこまの報告を終わります。

【中川会長】 これにつきまして、何かご意見、ご質問ございますか。

この記事に載っているV字回復、これはどういう努力をした結果かという事を言った方がいいのではないですか。どうですか。

【事務局】 PRの強化に努めたということで、様々な工夫をさせていただきました。また、出前受付を78カ所で行い、私どもが一人一人語りかけたと言ふことの結果かと思っております。

【中川会長】 職員の方が頑張ってくださいと。

【事務局】 職員がほぼ休み返上して、交代で行かせていただいたということが大きかったと思います。

【中川会長】 やはり増えたら増えたで喜んでいるだけではなく、何で5,344枚だった届出が9,129枚まではね上がったかという要因分析しといた方が良いと思います。頑張ったからという、それで済む話でもなさそうな気がします。ここに効果があったという所はありましたか？

【事務局】 出前受付を行ったというのがかなり大きかったです。そちらに出向きましたら市民の皆さんが、これだけ職員が頑張っているの、私も頑張らなければならないということで、それぞれ活動されている団体にそこで声をかけていただいたり、そういったことで複

数の方が協力者になったり。

また紹介冊子の方をリニューアルし、デザイナーをつけまして、かなり見やすいものになったということも要因であったかと思えます。

プレゼントの効果もあり、プレゼント先の方も喜んでいただいたこと、また、提供の団体様の方、福祉団体が多かったのですが、そちらの方のモチベーションアップにもつながって、よかったと思っております。

【中川会長】 分かりました。

【石畑委員】 私が聞いているところによりますと、マイサポいこまというのは聞いたことあるけれども、内容はよく知らないという方が街頭で話をしていると多かったようで、ということは、こちらから読んでくださいねと出すだけではやはり理解が深まっていなかったというのが一番の要因かなと思います。それを出前受付という形で1人ずつにご説明をしたり、ある程度の集まりでご説明をさせていただいたり、口頭でこちらから投げかけることで制度の理解が深まったというのが一番の大きな要因ではないのかと私は判断させていただいております。

【中川会長】 私が今言いたいのは、経営者として何らかの客体化していかないといけないということです。みんなが頑張って熱意を出したから良い結果になりましたというのは答えになっていないので、ここにこういう要因があって、こういう効果があったという何か要因分析しないと、次の知恵につながっていかないということを言いたかっただけです。では結構です。ほかに質問ありますか。

【石畑委員】 この数字の中で、3団体選択というのが非常に今回多かった、もしくは基金に入れるということも多かったですね。そのあたりをどう解釈したらいいのかなというのを皆さんのご意見をお伺いしたいなというのがございました。

【中川会長】 いずれにせよ、まだ始まってそんなにたっていないわけですし、増減の要因は、複雑なので。

案件2. 生駒市市民活動支援金交付決定について

【中川会長】 それでは、生駒市市民活動支援金交付決定についてお願いいたします。

【事務局】 あらかじめ配付しております資料の届出集計表をごらんください。届出による支援金額と支援金希望額、交付予定額及び基金積立額を表記しております。この予定

金額で決定させていただいてよろしいでしょうか。

【中川会長】 これについて皆さん特段ご異議はないと思いますが、いかがでしょうか。よろしいですか。

(「はい」の声あり)

【中川会長】 では、このとおりでしてください。

【事務局】 ありがとうございます。

【中川会長】 それでは、次に行ってもよろしいでしょうか。

【事務局】 はい。

案件3. 募集要項の改定について

【中川会長】 募集要項の改定についてです。これにつきましては、その背景などいろいろあるかと思しますので、あわせてご説明をお願いします。

【事務局】 マイサポいこまの要項改定についてです。

先月8月31日に平成29年度第3回生駒市行政改革推進委員会において、生駒市後期行動計画の平成28年度末時点での取り組み状況を確認されまして、マイサポいこまの制度や運用面に関する質問がございました。

1つ目には、賃金、食糧費についてです。要項の6ページをごらんください。

マイサポいこまでは、構成員に対する賃金、食糧費は認めておりませんが、アルバイトは時給770円まで、食糧費に関しては、講師、アルバイト等には認めておりまして、講師に対しては1,500円までという制限を設けておりました。アルバイトに対しても食糧費の上限を定めた方がいいのではないかとということ、また、賃金をもらっている人が昼食代をもらっているのではないかとということに対してもご意見がありました。

実際の運用でいきますと、多くの団体が賃金を払った上に昼食代を出すという余裕がなく、まれに両方出すという団体がいらした場合には、実施要項には書いておりませんが、賃金か食糧費のどちらかで対応してほしいという指導をしておりました。

また、アルバイトに高額な弁当代を支払っていたということは過去にはもちろんありませんでしたが、賃金と食糧費は両方支援しないということに加えて、この際、アルバイトの食糧費は上限800円とすることということも実施要項に明記した方がいいのではないかと事務局では考えておりますが、委員の皆様からもご意見いただければと思います。

2つ目としまして、事業の公益性についてです。

一部の事業では食糧費を使った懇親会的な要素が強く、一般市民の感覚からすると公益性が低いのではないかと、もう少し議論を深めてほしいというご要望がありました。マイサポいこま審査会では全事業を一つ一つ検証し、公益性、有効性、実効性の3つの観点から審査しておりますということはお伝えしております。事務局でも今でもしておりますが、マイサポ事業を見に行くようにしており、広く市民を対象として構成員のみの事業となっていないことや、食糧費の使い方等を見るようにするとともに、申請時、報告時にもきちんと確認するようにと努めていきたいと思っております。

3つ目としまして、団体の自主・自立を求めて補助の年限を5年とか10年とか区切ってはどうかという提案がありました。

マイサポの申請書には、前年度と同事業をする場合は今年度の目標や新規内容を書いていただく欄がございます。毎年少しずつでもステップアップしていただいているというのが実情です。マイサポいこまは市民から選択されることによって支援金が出されるものであり、市民からの支援・賛同がなければ支援金が出ないというものですから、そういう意味ではほかの補助金とは異なってくる点もあると思います。また、福祉の面などで補助を切られると困る小さな団体も多数あり、そういった小さい団体でも補助金がもらえるというのがマイサポいこまの長所でもあることから、一律同じルールで年限を区切るのも問題があるかと思われまます。

事務局としましては、登録を申請されるときにしっかりと今年度の新しい取り組みを確認し、同じことの繰り返しにならないようにするとともに、単に補助金をもらえる制度という認識ではなく、広く市民さんへの啓発・PRをしてくださってこそその制度であるということを理解していただき、協力していただくことをお願いしたいと思っております。

以上で報告とご相談でございます。よろしくお願いたします。

【中川会長】 今の件については論点ご理解いただけましたでしょうか。これについては全員からご意見賜りたいと思います。

宮西委員からいかがでしょうか。

【宮西委員】 まず、食糧費の上限、アルバイトが800円、講師が1,500円上限で、アルバイトもある程度数字で出した方がということをおっしゃっていたと思いますが、出してもあまり影響はないだろうと思えます。800円がいいかは分かりませんが、逆に800円まで出していいのかと、そちらの方でとられかねないかなというのがあります。

あまり高い金額設定をされてないのであればと思いますが、出すことについては問題なくあくまでも上限で、多分どこの団体もそんなに余裕がないと思いますので、上限を設けるのはいいかと思います。

あと、毎年同じ事業をというところですけども、実際、高山や鹿ノ台のお祭りは、ある程度審査の段階でこれ以上は、継続は出来ないと話はさせていただいているので、そこは一律に切るのはやはりしんどいのかなと。頑張って補助なくてやっていけるというのは理想的ではありますが、見ていましたらなかなかそうもいかないようなところもあるので、一律に年数をというのはしんどいとは感じました。

【中川会長】 ありがとうございました。

いわゆるアルバイトへの昼食代というのは上限を決めて設定することは構わないと、こういうことですね。同一団体に継続して何年もというのは、問題だったら切ったらどうかというのは、個々の団体に応じて判断するしかないので一律に決められないというご意見かと思います。

それでは、谷野委員、どうぞ。

【谷野委員】 期限の件ですが、例えば今回の交付決定金額を見ていましたら、竜田川流域の美しい街まもり隊の約25万円の支援金に対して交付決定2万3,700円です。やはりかなり長い年月、竜田川での活動をずっとボランティアでやっておられて、毎年継続されていて、市民の皆さんからどんどん支援が集まっているのではと思うので、期限を切って、5年たったのというのはいかがでしょうかと思っています。逆に5年たったら継続補助ぐらいの何かちょっとそういうやはり支援が増えていっているということは、皆さんそれだけ認められているのかなというのがあります。

あと、食糧費ですが、宮西委員と違いますが、やはり賃金をもらっているのです、お弁当は自前かなと思います。なので、講師の人と一緒に食べる方だけとか。お昼に講師の人はお弁当を出しますね。その方と一緒に食べる人だけとか、何かそういうルールかなという気がします。

【中川会長】 講師接待打合せしなければならない人とかというのだったら良いということですか。

【谷野委員】 それなら良いということかと少し思います。皆さん、来た人に全員という、気持ち的にはすごく分かりますが。

あと、題とは関係ないですけども、支援金を出した方の立場としたら、じゃ、50万円

全額もらえた団体がどのように使ったのかというか、逆にお礼の予算を置くと、お礼を皆さんに周知させる、こんなふうに使わせてもらいましたといった、何かそういうことはやっておられるとは思いますが、それを大きくやっていくことによってまた広がりというか、出ていくかなど。これは個人的な意見です。

【中川会長】 支援金をもらいました、こう使いましたということをもっと報告すると。

【谷野委員】 それでこんなことができましたということがもっとアピールできたらと思います。

【石畑委員】 私自身、事務局として生駒市行政改革推進委員会の方に出席させていただいて、制度の説明をさせていただきました。そのときにいろいろと感じたことも含めてお話しさせていただけるかと思います。

まず、食糧費に関しましては、現状では高い食事は食べておられないというのが実際にあるということもありますが、こう書いてしまうとやはり皆さん1,500円は食べているのかなど誤解を招いてしまうというのがありますので、一定、金額はまたご検討いただければと思いますが、講師の方以外については幾らというのは明示をした方が信頼していただけるのかという気持ちがありましたので、明示するべきではないかと思いました。

あと、賃金と食糧費の関係につきましては、谷野委員と同じですけれども、やはり通常私達もお昼ご飯、皆自前で仕事でも当然食べておりますので、それが一般的な常識なのかなと私も感じておりましたので、賃金をもらえる方のお昼は自前で、ボランティアで来られる方については一定の制限でお昼を出すというシンプルな形にする方がご理解はいただきやすいのかなと感じております。

それから、公共性があるかどうかという判断に市民の方にご理解をいただけるという点に関しまして、今、谷野委員がおっしゃっていただいたように、こういう活動をしました、こういう結果が出ましたというところをもう少しPRできる、報告書のあり方を考えるとこういうことがあってもいいのではないかというのは感じております。

補助期間の年限を定めると言われた時の生駒市行政改革推進委員会の委員の意向というのは、団体の自立を促す方が重要でないですかということでした。いつまでも補助があると頼ってしまうので、一定の年限を区切った方が団体の自立につながるのではないのでしょうかというご意見の中で年限を区切ったらどうでしょうかというご意向でした。そこに関しては難しいなと私も判断がなかなかできないところでありましたが。ただ、最終的には、この審査会でも審査をいただき、応募をされる市民の方のご意向を反映した制度というこ

とですので、結果的に私としてはあえて年限を設ける必要はないのではないかなと今は感じております。

以上でございます。

【中川会長】 分かりました。

では、北浦副会長、どうぞ。

【北浦副会長】 皆さんと同じになってしまいますが、食糧費についてはやはり賃金としてもらっておられる方は、そこでも既に費用が発生しているので、昼食代ってあえて出さなくてもいいかという気がします。ただ、先ほど言われたみたいに明記した方が分かりやすいというのであれば、それ以外の方について書かれているのはいいのかなと思えました。

期限についてですけれども、私も、それぞれのケースによってここで審議して、またその団体にも指導されてという形で今まで来ていますし、きちんと改善というか、団体のお祭りの的なものとかはきちんとと言われて、今年はお出てきてないという状況もありますので、その形で対応されているので、それでいいのかなと、一律に決めなくていいのかなと思えますし、ご意見言われた自立を促すという意味はよく分かりますが、自立ができたからといって費用の面が全部賄えるかと言われてたら全くそうではない。市民を支えていく活動というのはすごくたくさんあると思うので、その辺を市民にご理解いただいて、支援していった方がいいのかなと思えました。

以上です。

【中川会長】 ありがとうございます。

私もそう大した意見を持ち合わせていないのですが、考え方はいろいろあると思います。1つは、アルバイトの賃金の中に食費が含まれるという解釈をしても可能かなと思います。もう1つは、アルバイトの賃金と食費を分けるといった場合に、例えば午前にも働いてもらおう、午後にも当然働いてもらおうと決めている場合は、それは食糧費を出したら、昼食代を出してあげるのが妥当ではないかという考えもあるので、これは物の考え方だと思います。だから、賃金単価を高く設定できるのなら、そこに食費込みですという解釈は可能だろうと。しかし、世間相場から見てそんなに高くないというのでしたら、食費を出したって別におかしくないのではという程度の問題でしょう。程度問題だろうと思いますね。その出すことが妥当か妥当でないかというリジッドな議論になじまないと思います。お弁当を出すから不健全だというのは決めつけだと僕は思います。

高額な4,000円、5,000円もお昼ご飯代を出すというものでしたら、また話は別。これは以前、講師に対するお昼ご飯代でもめたことがあります。別に国費の補助金で。ある芸術家の1泊10万8,000円のホテル代をめぐって大論争したこともあります。そういうことについての議論ならば、私は応じてもいいと思いますが、もうどちらでもいい話だと思いますね。金額の大きい、小さいで決めたら良いかと。これはもう基準で決めてしまえば、決着をつけてしまえると思います。こちらで決めるのもどうかと思いますので、事務局で判断して決めてもらったら、それに従います。食費というのはそういうものだと思います。私たちが給料をもらっていたときに食費込みでもらっていたわけだし、そう考えたら同じことじゃないのかという見方も。

ところが、一部の企業ではもう昼食は会社が負担するのが当たり前になっている企業もあります。食堂、ただで供給しますという所。特に知的なゲーム関係とかです。そういう環境を整えないと社員が来ないということで。けども、そういうところでの議論でもなさそうだと思うので、判断を委ねます、皆さんの体制に。

それから、年限を決める是非については、私は一見正論に見えるけれども、物すごく奥深い議論なので、本気になってその議論をしてくださいと逆に言い返したい。行革の議論になじまないと思います。生駒市行政改革推進委員会の議論で年限を切るというのはコストダウンの話でしかない。そうではなくて、この中には補助金を切ったら即座にだめになってしまう活動もある。補助金があってこそ成り立つ活動もある。そういう活動を否定してしまっているのですかということ逆を聞きたい。

特に社会的少数者を対象とするような事業など、あまりみんなが目覚めていない、いつまでたっても特定の人しか頑張ってくれないような、先ほど少し出ましたが、竜田川流域の美しい街まもり隊というのは、啓発に問題があるのかもしれませんが、ずっと少数者だと思います。圧倒的多数の生駒市民が味方に立つといいことはあり得ないと思いますね。これ、手を引いてしまったら、すぐ倒れてしまうと思いますよ。それでいいかという、そういう議論も逆に生駒市行政改革推進委員会の人には、考えて欲しい。自立を目指せというのは一見正論です。けど、助成金とか民間の助成金あるいは国の助成金、都道府県、市町村の助成金があるから成り立っている活動もあるわけで、そういうものを完全否定していいのでしょうかとは思いません。

早い話、みんながみんなねむの木学園にはなれないと。完全自立での活動というのはあり得ない。そこをどう判断するかということの議論をしてもらいたいので、私は年限を切

るのは反対です。ただ、高山や鹿ノ台の盆踊りに関しては5年間状況を見てきて何らかの発展してほしい、何らかの人的集団を形成して、それをもとにまちづくり協議会とか防災委員会とか、そういうものに発展させる基盤を作ってほしいと何度もお願いしたけれど、その方向には行かなかっただけです。そういうものと一緒には議論してはいないかという気がします。

今の議論はストック形成を何と考えるかの問題です。人材をストック形成と考えるか、ノウハウをストック形成と考えるか、資金をストック形成と考えるか。それと、資金ベースだけでストック形成だと考える非常にイージーな議論だと思って、私はそれに対しては乗りません。行政改革推進委員会というのはそういうものでないと思います。いたずらに3年たったら自立してください、打ち切りですという議論はどこ自治体でも今はやっていません。同じことなら3年までですが、4年目になったらカラーを変えてくださいということ。それはありですね。だから、少し工夫して下さったら、いくらでも続けられる。もう1つ言いますと、この今でさえ約682万の希望に対して約429万しか出せてないということは、予算はもっとある。1%使い切っていない。このことも僕は問題なのであって、ここに対してはもっとコストを下げなさいとかいう議論をすることが今この時点での戦略としてよい戦略なのかと逆に聞きたい。もうこれやめなさいということよりももっと広くみんなに周知してもらわなければならないですかと。不執行の予算が残っているほうが私は問題だと思いますが。イージーな行革論には私はくみしたくないというのが私の意見です。そういうところで潰れてしまう市民のエネルギーとか貴重な市民の志というものがあるのではないのかと。それを潰すような議論を私はしたくないです。

以上です。

ということは、結論は、賃金の中に食糧費込みで賃金レートを決めるか、賃金レートを一定レートで抑えるならば食糧費として別枠で定めることは別に問題はない、いずれでも構わないというのが委員会の意見かなと思います。

2つ目に、年限を決めることについては、年限を決めるという判断は一律には妥当性はない。物による。非常に市民活動というのは多様であり奥が深い。それに対して自立できるのはごく一部でしかない現実を踏まえるときに、この議論はなかなか困難であるという答えしかないということです。

ただ、日中文化交流「春節の集い」。お料理食べ合いながら仲よくする交流なので、少し誤解を招く可能性はあります。物を食べるというか、お互いの国のおいしいお料理を食べ

合って国際交流するというのは国際交流の入り口ですよ。だから、それを否定してしまったら国際交流の非常に入りやすい入り口を全否定することになるので、それも要注意だと思います。食べることが国際交流というのはおかしいのではないかという議論は逆に反対だと私は思います。むしろそういうリジッドな議論が間口を狭めてしまう。

ただ、どんちゃん騒ぎすることだけで終わってしまったら困ります。だから、食べ物を食べ合って仲よくして、その人たちがメンバーとして分かってくる。お互いに名前も顔も所在も分かった者の名簿ができていくみたいな。そういうことが実はストック形成だと思うので、それを狙っているというのであれば、大いに良いと思います。

だから、物の中身をよく観察して評価してくださいと私は言いたいです。見かけ上、食糧費は目立ちやすいです。飲み食いといえはすぐにどんちゃん騒ぎと誤解する。その手前のところで我々踏みとどまったじゃないですか。盆踊りをやったとしてもいいのではないかと。5年間見ようとしたのだから。そこに一定のやはりストック形成に対する志とか意思があれば、もう少し見てみようと、聞いてくれるかどうか待とうよとなったのだから、そういう1つの寛容さというものを市民性として失ってほしくないです。ということもメッセージとして伝えたい。というのが私個人の意見です。

【石畑委員】 いろんな議論を聞いていて、一番重要なのは、当然そういうものを説明したのもいろんな経費はかかっているけれども、その団体に補助するための経費ではありませんという話をしていました。それは皆さんに生駒市はこういう姿勢で市民活動を援助していますよというのを広くもっと知ってもらおうというのが一番の趣旨なので、費用はそこでかかっています。そこはご理解ください。そういう説明をさせていただきました。その上で、やはり一番必要なのは、市民の方から、「いい制度だな」と思ってもらえるということが一番必要なんじゃないかなと感じておりました。

今申したその食糧費のことも、そういうことをやっていくことで信頼を積み重ねていくということも必要なのでないかとは感じております。

【中川会長】 その辺はよく見ておいてください。ただ、生駒市日本中国友好協会「春節の集い」がたくさんかかわっているし、かなりの人が今まで歴代かかわっていて、結構老舗です、一番最初からずっと頑張っておられると思います。

では、そのような方向でお願いいたします。

では、改正箇所というのはこの6ページのところですよね。

【事務局】 はい。2点を書きかえるということで。

【中川会長】 それだけですか。団体構成員に対するものは対象外という、もう1つ報償費にもあるけど、これは前から入っていましたか？

【事務局】 報償費は前から入っておりました。

【中川会長】 食糧費に関しては変更なしですね。

【事務局】 食糧費に関しましては、上限ですね。

【中川会長】 1,500円ですか？

【事務局】 はい。

【中川会長】 これは前からですか。

【石畑委員】 これは今の案ですよ、改正前の。

【事務局】 はい。現在も使用している物をお渡ししていますので。今このように書いています、書くとすれば「800円を上限とします」というような文言を1つ。

【中川会長】 それでは、まだ変わってないわけですね。

【事務局】 はい。今これでやっておりますということです。

【中川会長】 これをちょっと変えますということですね。分かりました。

【事務局】 では、以上でございます。

【中川会長】 話が終わってからですが、生駒だけじゃなくて、例えば西宮も神戸も豊中も箕面も、こういう制度を色々なところがおこなっています。奈良県もおこなっている。そういうものと照らし合わせてみて、食糧費は、どうしているのだろうか、アルバイト賃金、どうしているのだろうか、一度他の知恵を突合してみたら？物によったらものすごく緩い物もあるし、こんなに認めているのかというのものもあるしね。その場合、なぜというのを聞いてみたら。それはそのそのそれなりの知恵が集積されていると思いますよ。

それと、私も最近反省しているのですが、同一事業について継続3年、次はもう少し変えてもらわないとだめですよみたいなものは確かにあります。そういうやり方をやっているところが同一事業の場合は逆に5年まで認めますというの。3年やったのを5年で延長しているのがあります。むしろ伸ばしている方向があります。というのは、全く同一の場合だったので。それもまた方法があって、初年度7割、2年目になったら今度は6割引、3年目になったら5割に落としますみたいなね。同じ事業だったら補助率を落としていきます。4年目はもうゼロにしますよというような。そのときはゼロになる前に新しいステップを提案してくださいという仕掛けに持っていったりしています。そんなのも考えられるかと思いますが。

ただ、マイサポの場合は市民の届出があるので、そのステップを踏んでいるから余計に話が難しくなりますよね。市民の届出を圧倒的にもらっているのに、あそこ7割でこちらは5割なのですかなど。ややこしくなります。だから、市民届出制度を入れているということは、よほどのことがない限りは、やめるとは言いにくい話です。市民が支持しているのだから、良いという事になります。

—— 了 ——